

第 11 回脱炭素ワーキンググループ

議事録

日時：2018 年 4 月 6 日（金） 10:00~12:00

場所：新宿パークタワー11階 会議室

出席者：藤野座長、小西委員、高橋委員、千葉委員代理

勝野オブザーバー

※本議事録では、ディスカッショングループを「DG」、ワーキンググループを「WG」と記しています。

- 事務局：4月になりましたので、人事異動を踏まえまして、一部、委員の交替がございました。そちらから、お知らせいたします。東京都オリンピック・パラリンピック準備局での持続可能性分野の所管部署が変更になりましたので、白井委員から高橋委員に変更となります。東京都環境局の人事異動に伴いまして、三浦委員から阿部委員に変更となります。本日は、阿部委員が欠席のため、千葉計画担当課長代理が代理出席となります。それでは、藤野座長、よろしく申し上げます。
- 藤野座長：第二版も深まってきましたので、忌憚のないご意見を頂戴して、大会を後押ししていけたらと思います。では議事次第に従って、議事次第1番の前の振り返りから、事務局で説明をお願いいたします。
- 事務局：資料2の前の振り返りに基づいて説明。
- 藤野座長：前回大体このようなところを議論したところですが、何かご質問はありますか。
前回の議論について資料2にまとめていただきました。カーボンオフセットについては約300万tのフットプリントに対して、厳格な承認のとれているクレジットでオフセットしたほうが良いということでした。年限については、実施する上での実効性を鑑みて、できるだけたくさん参加してもらえよう仕組みができれば良いということでした。貢献量ということについても議論がありましたが、厳格なクレジットという程の検証は必要なくても、オリパラを契機に気候変動への取り組みに参加していただく方を増やしていくことが重要ということでした。ただ、それをどのように集めていくかはまた、検討が必要という議論だったと思います。再エネについては事務局にもう少し検

討していただくということでした。そのような理解でよろしいでしょうか。

- 小西委員：はい。
- 藤野座長：それでは議事の2について資料3のご説明をお願いします。
- 事務局：資料3に基づいて気候変動分野の全体的方向性について説明。
- 藤野座長：3月に委員会があって小西委員に報告いただきました。その時の反応はいかがでしたでしょうか。
- 小西委員：脱炭素については、あまり意見はありませんでした。調達に関するご意見が多かったと思います。そのような理解で事務局はいかがでしょう。
- 事務局：はい。
- 藤野座長：わかりました。それでは資料3の2ページ目のところについては何かご意見ありますでしょうか。
- 小西委員：マネジメントという言葉はどうしても入れる必要があるということなのでしょう。
- 藤野座長：それは入れるということだったかと思います。
- 小西委員：マネジメントという言葉がマストであれば、仕方ない気もしますが、対策の最大化を図るためにマネジメントを実施するという文章が、最大限の温暖化対策をするということを、あまりクリアには見せてないと思います。マネジメントという言葉を入れるということであれば、仕方ないのでしょうか。
- 事務局：脱炭素のこれまでの議論の中でも、対策を計画するだけでなく、きちんとそれをマネジメント、管理し、計画通り実施されているか見ていくことが重要とのご意見もあり、今回それを取り入れましたが、まさにそれは東京大会の特徴だと思えます。今、2章の議論をしておりますが、別の章のところで、それぞれの主体がどのように取り組むか、それをどうマネジメントするかということを書いております。マネジメントという言葉は残しておいたほうが良いかと思えます。

- 藤野座長：前までこの表現は入っておらず、確かに表現は、少し要素が多いように感じますが、ひとつの特徴なのでできればいれたいと個人的には思います。高橋委員はどうでしょうか。
- 高橋委員：この説明書きというのは、Towards Zero Carbon の説明ということでよろしいでしょうか。
- 藤野座長：そうですね。
- 高橋委員：資源管理 WG の表現と合わせた方が、見る人もわかりやすいのかと思います。
- 藤野座長：資源管理 WG の資料も今回の WG の資料に入っていますでしょうか。
- 事務局：資源管理 WG を実施して、現在、文言調整中です。
- 藤野座長：大気・水・緑・生物多様性の分野も含めて、勘案したほうが良いと思います。
- 千葉代理：これまで色々な議論があって、検討してきたのだと思いますが、初めて見た時の印象は、長いなという印象です。文章を練った時に「その方向性」というのが何なのかというの也有着膨らんだのではと思います。そこで確認をさせていただきたいのは、キーワードは対策の最大化を図るという意味を示そうということと、CO₂排出量を最小化するためのマネジメントをするという 2 点かと思います。これで議論が合意されているのであれば良いですが、英訳すると長いと思います。そこは、これまでの議論を踏まえて考えていただければと思います。
- 藤野座長：的確なご指摘で、その要素が入っていれば良いのだと思います。高橋委員ご指摘のように他の WG とのバランスを取りつつ、要素を入れられれば良いのだと思います。
- 勝野オブザーバー：確かに、長い印象です。その対策とは何かと考えると CO₂排出抑制ということだと思うのですが、実はそれが文章に書いてありません。文脈からは読み取れるのですが、文章を長くして、文脈から読み取るという趣旨で書くのであれば良いと思いますが、本当に書きたかったことはこのようなことなのでしょうか。大会開催に起因するということでは必要なののでしょうか。ここは別にしても良いと思います。そうすると何がその対策なのかということになってしまいますが、何が重要かということ

ろで書いていければ良いと思います。

- 藤野座長：CO₂対策、気候変動対策、細かく言えば、省エネ・再エネというところですね。さきほど、高橋委員からもありましたが、Towards Zero Carbon ということがお題目にありまして、他とバランスを見つつ、文章を見ながら作っていただければと思います。そのような形でよろしいでしょうか。事務局は、どこまで決めるべきと考えていますか。
- 事務局：パブコメ前の WG は今回が最後なので、できればこの場で固めていただきたいと思います。
- 事務局：無理であれば後日、メールでご意見いただければ。4月16日の DG までには決めたいです。
- 藤野座長：一つは DG に出す文章をどうするか、もう一つはその DG の場でどう調整するかですね。確かに1つの文章だと長いので、どこかで文章を2つに分けても良いのでしょうか。
- 事務局：そうですね。
- 藤野座長：一つの手としては、最初の3行で一回区切りを置く、「世界が～東京大会が開催される。そこで、～」というような形ではいかがですか。確かに、「大会開催に起因する～」の文章は長いです。「可能な限り」という言葉は必要ですか。これがなくても、できるだけ実施するというのは当然です。「CO₂排出量を正確に把握し、CO₂削減対策の最大化を図るためのマネジメントを実施することで、脱炭素化の礎を全員参加で築く」という趣旨で修正いただけますでしょうか。
- 事務局：はい。
- 藤野座長：それでは、運営計画第二版についてご説明をお願いします。
- 事務局：運営計画第二版について、資料3、資料4に基づいて説明。
- 藤野座長：ご意見等あればお願いします。
- 千葉代理：今一度、頭の整理をさせていただければと思います。(運営計画第二版の1.2

の東京大会の持続可能性の主要テーマと SDGs に関する記述の部分については、) 計画の第二版に SDGs との関わりを記述したいということから検討が始まったと思います。それは東京大会が SDGs の何を大切に、どのようなゴールに貢献したいのか、貢献するために、何を対策として行っていくかというところだったかだと思います。そうすると事務局のご説明は、なるほどと思いつつも、考え方の順番が少し違うのかと思います。資料4の計画の本体に入れ込みたいというご提案をいただいたかと思いますが、そうすべきなのか、皆さんでも議論していただければと思います。

- 藤野座長：大事な問題提起かと思います。これについていかがでしょうか。リオ大会も計画時は SDGs が議論されていなかったかと思うので、SDGs をはっきり入れて持続可能性計画を作るのは東京大会が最初だと思います。千葉代理がお話されたとおり、そういう理念や17のGOALがあるということで、東京大会がSDGsの観点では、こういう立ち位置にあって、どういう方向性なのか、スポーツイベントがSDGsにどう貢献するのか、最初に謳う必要があると思います。スポーツ大会がどうSDGsに貢献するのか、IOCがこの辺りについて言及しているものがあればそれを引用しつつ、もう少し大きな段階で、まずはSDGsが東京大会にどう関わるのかうたっていただいた方が良いかと思います。後半の気候変動のところでも、具体的にこうしますというものはあった方が良いでしょう、大きな方向性などがあってから具体的に東京大会ではこうしますというほうが良いと思います。他の委員会やWGを知らないのですが、SDGsのゴール3の健康と、ゴール4の教育という面も東京大会においては全体の流れの大きな要素としてあると思います。スポーツ大会自体がSDGsに貢献することについて、運営計画の他の(1.2以外の)個所で触れないのであれば、DGでも議論すべきだと思いますが、そういった要素があった方が良いでしょうのではないかと思います。
- 事務局：計画の第1章の全体像を資料として提示していませんので、理解しづらい面があることは申し訳ありません。今の座長のご指摘は第1章の記述にすでに盛り込んでいます。1.1の基本理念で東京大会がどういう大会か、この中でSDGsにも貢献するということを明記し、その根拠となる(東京2020大会が世界規模の大規模イベントである、貢献する役割・期待、能力がある、という)データや資料も載せています。オリンピックムーブメントと大会毎の流れ、IOCの決めごと、それらと互いに呼応する世界の流れについて整理をしつつ、スポーツ、オリンピックムーブメントがSDGsに極めて関わりが深いのだということについて、参照できる具体的な文章がありますので、引用して載せています。2つあり、ひとつは2030アジェンダ、スポーツが持続可能性に重要な役割を果たしているということ引用しつつ、もうひとつは、IOCが2030アジェンダを受けてコミットメントを出していて、オリンピックムーブメントがSDGsに貢献するということを述べています。それらを受けて1.2として主要テーマで5つ

を掲げています。なぜこれらを選んだかについて、今までのフレームワークや第 1 版を踏まえて書いています。この一連の記述はある意味で言うと半分くらいは 2030 アジェンダや SDGs の解説みたいなものが入っています。運営計画全般が大会関係者はもとより、広く社会一般の様々な方に読んでいただくものを意図していることから広く社会の皆様に、持続可能な開発や SDGs について、理解を深めてもらうために記載しているものです。

2 点目、千葉代理のご指摘は、考え方の順番は、実はご指摘の順番の逆です。SDGs が決定されたタイミングと、我々の計画の検討過程には時間のずれがあって、SDGs が国連で決められる前から、フレームワーク第 1 版を先に作ってききましたので、そのプロセスは正確に報告する必要があります。主語をあくまで大会側に書いております。あたかも SDGs が前提としてあって、それを受ける形で大会がある、計画を検討したと読めしまうと、この 2 年間の議論のプロセスと異なってしまいます。SDGs に東京大会も貢献していくわけですが、東京大会の取組がどのように関わりがあるか示す書き方にしています。

- 藤野座長：千葉代理のご指摘については、今の案では、実施できそうな対策が書いてあって、また、SDGs では野心的な目標が設定されている中で、その順番はどちらでも良いけども、改めて、SDGs で見ると、この大会は野心的なことをやろうとしていて、それが SDGs でどのように対応しているのか、書いたほうが良いのではということでしょうか。
- 千葉代理：私の理解では、第 1 版の策定時から SDGs への貢献を議論してきたのではないかと思うので、途中から SDGs が入ってきたという認識はありません。そうしますと、資料 4 の 2 ページ目は何を言いたいのでしょうか。貧困や飢餓に対応するというゴールは大事というのは大前提だけど、気候変動については、それがゴールになっていない。前はグラデーションがあって濃い薄い、重要度に関する議論がありました。今回の資料はどのような意図だったのでしょうか。
- 事務局：その書き方が難しいところです。第 1 章は大会全体の取り組みの概観のようなものだと思っております。後々のエグゼクティブサマリーにもつながってきます。第 1 章で書く内容は、大会に関わる取組全体の概要を理解していただくための大事なポイントです。ただ単に、大会と SDGs との関わりが重要とだけの記述では、読み手の方に具体的なイメージが伝わりません。イメージをもってもらうための例示を、適切に、多すぎず、少なすぎず、出したいと思っています。テーマに対してどう関わっているか解析的なことをここで述べるつもりはなくて、それは第 2 章で各テーマの中で目標のどういうところに関わりますというところで記載されるのが良いのかと思います。第

1章で挙げる例示は、東京大会ならではのよう特徴的な例を出して、それがSDGsのどこにつながるかをイメージとして出したいという意図です。

- 藤野座長：今回は脱炭素 WG での議論ですので、全体がみえてない中でこの話をこれ以上しても、と思います。この話は全体に繋がってくるかと思いますが。全体としてどう見せていくかということも重要ですが、脱炭素 WG という立場で、2 ページ目の後半で、もっとこれは言わないといけない等のご意見があれば、いただいた方が良くと思います。
- 事務局：事務局としては、気候変動テーマについてこの例示で良いのか、もっとこちらの例示の方が良いというサジェスションをいただけるとありがたいです。
- 勝野オブザーバー：根本的な議論をここでしてもどうかと思いますが、2016 年の 8 月のフレームワークの議論の中でも、SDGs の議論もしてきました。全く SDGs の存在を意識せずに運営計画を作ってきてはいないかと思いますが。政府の中でも、2016 年 5 月から SDGs 推進本部を設置して議論してきて、昨年 12 月に、「SDGs アクションプラン 2018」を策定して、その中に大会のことを位置付けています。メダルプロジェクトの話も出てきます。どちらが上ということではなくて、SDGs があるなかで 2020 年に大会を開催します、大会も SDGs に貢献していくというメッセージだと思います。
- 事務局：SDGs と全く関係なく議論してきたという話を申し上げるつもりはありません。SDGs の 17 の目標は意識して議論してきましたが、ターゲットレベルのどれに貢献するという点では議論してきませんでした。具体的な目標や取組とターゲットレベルの求めていることのリンクがない中でテーマ設定が行われ、まさに第 1 版から第 2 版にかけての議論の中で、具体的に何をやるのか、より明確に結びついてきたということを整理しておきたいということです。
- 勝野オブザーバー：目鼻が立たないと、具体的なリンクがはっきりしないので、やっと目鼻が見えてきましたということをお願いしたいのでしょうか。
- 事務局：まさにその通りです。
- 藤野座長：分量が多くなりすぎないことも必要ですが、政府の動きも含められればと思います。他にいかがですか。
- 小西委員：脱炭素は再エネ 100%の議論なども含めて進んできていますが、SDGs とい

うと国内と国外と二つの面があると思います。国内において脱炭素は後から整理しても大丈夫だと思いますが、国外とするとすでに問題を指摘されている状況です。脱炭素WGではありませんが、調達の方で、木材も水産物もパームも紙もSDGsから見たときには、リスクがあることを認識しておくことが必要かと思います。SDGsの運営計画について話すことももちろん大切ですが、リスク管理を考えることもとても大事だと思います。SDGsに東京大会はこんなに貢献すると示すことは、表裏一体で、SDGsをこんなに無視していると国際社会から言われるリスクを負っています。謳えば謳うほどリスクを負ってしまう可能性があります。東京大会の調達コードが世界最高峰の持続可能性の確保になっていないことも考えるとリスクがあることをここで、問題共有させていただきたいと思います。

- 藤野座長：その点は、脱炭素も暑熱対策はリスクになると思います。SDGsでは17のゴールがハイライトされますけれども、計画を作るプロセスを続けて、最高峰の持続可能性の調達コードになっていなくとも積み重ねていくことで改善はされているのだと思います。まだ、足りないというところをどう表現していくかということがあるのでしよう。また、今回参考で、大会で見たところの目標レベルとそれに対する対策も整理しました。仕組みとしてのSDGsを活用しているところについては、脱炭素も資源管理もかなり意識して取り組んだのでハイライトして書くというのは良いと思います。小西委員が述べたように、脱炭素は13番と7番を中核にしつつ、可能な限り、再エネも100%を目指し、フットプリントもできるだけゼロを目指す、これをハイライトするのが良いと思います。あとは、2ページの後半の書きぶりなどあればご意見を願います。3ページ目の参考のところも願います。
- 事務局：参考のページについては、運営計画に直接掲載するつもりはありません。今後、大会関係者とコミュニケーションを取る際に、共通の理解とするために役に立つものと思っているので、内部的な共有の知的財産だと考えています。
- 藤野座長：具体的にそのようなステークホルダーとのやり取りを通じて、ここもブラッシュアップされていくのかもしれないです。
- 事務局：SDGsのことで、確認ですが、資料4の2ページ目で、各対策についてゴールレベルで関係の強そうな項目を番号で挙げることはよろしいでしょうか。なぜかといえば、項目を上げることにより、「この項目は入らないのか」という議論が出てきてしまいます。対応する項目を示すのではなくて、定性的に文言だけで示そうかと事務局でも議論しましたが、それですと関わりが不明確になってしまいます。どこかで、対応する項目を示す必要があるかと思いますが、この方向性についてはいかがでしょうか。

- 藤野座長：何か書かなければと思いますが、どうでしょうか。千葉代理、何かございますか。
- 千葉代理：何か書かないとぼやけるので、書いた方が良くと思いますが、「これが入っていない」という意見は必ず出てくると思います。これは止められないと思います。例えば、貧困の話についても、途上国の問題だけでなく、子ども食堂がなぜ日本では必要なのかという日本の中の問題もあります。人によって感じ方が違うものなので、ただ、「等」と書いていますし、これはこれで良いのではないかと思います。
- 藤野座長：ゴールについて、7、8、13と並列に書いていますが、場合によっては、13と7、8などのように、若干濃淡をつけて書けないかと思います。
- 事務局：それですと以前の案であるマトリックスに戻ってしまいます。
- 藤野座長：では、文章の中で強調していただいて、特徴になるところを最初に記載していただくのが良いかと思います。貧困などはこれよりも上のレベルで書けると思うので、そのような方向でいかがでしょうか。
- 事務局：ありがとうございます。
- 藤野座長：また何かお気づきの点がありましたら、お願いします。それでは次の本文のところをお願いします。
- 事務局：資料3の3-2に基づいて第二版について説明
- 藤野座長：ありがとうございます。ご意見ご質問いただけますでしょうか。今は制度に基づいたということなのですが、これで大丈夫でしょうか。本文中の具体的な記載について、●●なところをどういう意図にするか。制度に基づいた、で大丈夫でしょうか。
- 事務局：制度というと自治体などの制度になってしまい、その他が入れなくなっています。制度に基いたというのは計画本文がそうになっているのですが、先日お話しいただいた「厳格な」ということで揃えてしまって良いのではないかと思います。みなさんの意見はいかがでしょう。5ページ目の●●なクレジットというところです。

- 藤野座長：厳格なクレジットということで説明してわかりますでしょうか。
- 勝野オブザーバー：今検索してみたらそのような表現は見つかりませんでした。新しい定義なのでしょうか。専門用語としてあるのでしょうか。
- 小西委員：ここの WG で言っていただけです。
- 勝野オブザーバー：世界に共通する言い回しがあればそれを日本語訳にするというのがあります。ポイントはわかりやすさと世界に通じるか、ということかと思います。
- 小西委員：他の調達ガイドライン等と揃えて、オフィシャルクレジットから調達するものとし、5 ページの E の条件を書いて、自治体、J-クレジット等は基本的にこの条件を満たすものとすれば、他と並ぶのではないのでしょうか。逆に東京オリンピックの考えるクレジットの条件はこうであるというものを書けば、特に厳格なという表現はいらないのではないのでしょうか。
- 藤野座長：確かにまずルールを書いた方が良いです。それを具体的に満たしているものとして 4 つのルールがあり、それをどう呼ぶのかということですね。東京大会ルールでしょうか。
- 小西委員：東京大会で適用するという意味でしょうか。
- 藤野座長：そういう意味です。
- 小西委員：それを他の調達ルールとそろえると良いと思います。そうすれば、みんなルールが決まり、東京大会で調達する～に関しては、このガイドラインを満たすものである、～の認証を受けているものは、このルールを原則満たすものであるとして、並べれば良いのではないのでしょうか。
- 藤野座長：正確には東京大会に適用するカーボンクレジットのルールというわけですね。
- 小西委員：それを他の調達はコードと言っているわけですが、ガイドラインなどでいかがでしょうか。そうでないと、何が当てはまるのか難しくなってしまいます。
- 藤野座長：東京大会で適用するカーボンクレジットの規則原則というのがあって、元に

戻ると制度に基づいたというのがあるわけですが。

- 小西委員：ここではもう制度に基づいたにしないほうが良いですね。以下のガイドラインに満たしたクレジットの調達による、というようにしないと、何の制度かわからなくなります。
- 勝野オブザーバー：本文の中にいれるよりも、アタッチメントとして外出した方がわかりやすいと思います。さらに細かいことは解説としてさらに落としているので、そういう整理もあると思います。
- 千葉代理：アペンディックスにつくガイドラインを一言で表すワンワードを作りたかったのかと思うのですがいかがですか。
- 事務局：第二版にどう載せるかはまだ議論できていません。まず本文の中には目標と指標を挙げたいと考えています。別添につけたほうが良いのか、本文に盛り込んだほうが良いかは検討中です。時間的な問題もあり本文に挟めないかもしれません。
- 勝野オブザーバー：それであれば詳細は別添というのが良いのではないのでしょうか。
- 藤野座長：東京大会に適用するクレジットという形で書きます。この説明を別添に持っていったときに、別添までたどり着かない人もいますので、特徴的なところだけ短く書けるようであれば、2つのオフセットクレジットの違いが見えてくるかと思っています。
- 小西委員：主要なインディケータの貢献量のところは明確に書いてしまった方が良いと思います。カーボンフットプリントに関しては、東京大会の基準を満たしたオフセット、もうひとつさらに外で積み上げるものに対しては、というような形にしてはどうか。
- 藤野座長：そうやって整理すると良いと思います。5 ページ目のところはこの前議論したのでだいたい良いと思いますが、その他はいかがでしょうか。1つ気になっているのは、カーボンオフセット貢献量の2番には2016年度という年限が書いてありますが、上のEには書いてありません。東京都のクレジットやJクレジットでやろうとした時に後ろの年限を決めると参加できないかもという議論があったわけです。下が厳格で上の方が緩いとなるとどちらが厳格なのかということになってしまいますがどうでしょうか。この意味としてはオリパラに触発されて行ったプロジェクトであるというこ

とを入れたいということだったかと思います。運営計画を検討し始めたのが2016年なので、それ以降という定義をしていたかと思います。大会を念頭に行われているプロジェクトという意味合いでよかったですでしょうか。

- 事務局：大会開催を契機にということよかったですかと思いますが。前回の議論のクレジットのところまでいつまでに作られたというのがありましたが、まだ整理がついていないので、今回は期限をいれていません。我々が有限的な組織であるということ、制度によっていつからいつまで担保できるかというのはひとつひとつ違ってまいりますのでよく調べて検討します。
- 藤野座長：具体的な運用がわかってくれば、できてくると思うので、ラディカルな検討をお願いします。かなり整理できました。では次のところをお願いします。
- 事務局：資料3の3-3に基づいて第二版について説明
- 藤野座長：再エネについて深いところは今日できないかもしれませんが、本文のところで何かご意見あればいかがでしょうか。
- 千葉代理：まだ見きれいでないので追加をしたほうが良いという意見があれば追ってほしいのですが、確認です。7/32 ページの目標値の数値についてはオリンピック環境アセスなど今までのものが盛り込まれているということで良いでしょうか。
- 事務局：はい。
- 藤野座長：事務局の方で他にここは困っている、追加の説明等あればいかがでしょうか。
- 事務局：3/32 ページのディビジョンツリーのところですが、Owned・Shared・Associatedという分け方がありまして、ロンドン大会からずっと各大会このようになっています。この中の人たちにはこれですぐにわかると思いますが、Owned・Shared・Associatedは日本語にしないで記載して良いのか相談させてください。
- 藤野座長：この先 Owned・Shared・Associated と記載しているところはないのでしょうか。
- 事務局：オフセットクレジットのところではそれらとの関わりで議論しましたが、現時点ではそれら3つとの関係に触れなくなっています。

- 勝野オブザーバー：もう少しどう考えてどう整理したというような解説を書けば良いのではないのでしょうか。以降頻繁に使われるわけでもないのに、無理して日本語訳にする必要はないと思います。
- 事務局：本当にこのように3つに分類する必要があるのでしょうか。IOC との関係もあり、過去大会では分類されているので、同様になっていると思います。一方、東京大会の場合はロンドン大会とは異なり、費用を支出した人が責任をもっていない場合があります。
- 藤野座長：初めての方は何なのかわからないと思いますし、過去大会の考え方を参考にとしか書いていないので、勝野オブザーバーからのご指摘のように書いたら良いと思います。またこのままの絵の中で Owned・Shared・Associated を文章として表現していくのかどうかですが、IOC の人も読むのでこれが全くないのもどうなのかというもあるかもしれません。ロンドン大会の場合は Owned・Shared・Associated の考え方で分けましたが、東京大会では、特にわけることなくオフセットについては全体で運用をやりますというのを中間に小さく書くのはどうでしょうか。
- 千葉代理：平昌もこのように書いています。Owned・Shared・Associated はこの計画の中でしかでてこないと思いますが、カーボンフットプリントは別に冊子として出すのでしょうか。その中にこれらを解説に書くのでしょうか。なぜこれを算定されていないのかという意見も出てくるかもしれません。我々としてはここまで考え関連の強いもの、もしくは Associated まで考えていたということが、計画の中から見えなくしてしまうのは大丈夫でしょうか。カーボンフットプリントは別に冊子として出して、詳しく説明されるのであれば良いと思いますが。また勝野オブザーバーの指摘の通り、必ずしも日本語にする必要もないのではと思います。
- 藤野座長：IOC は必ず見るので、過去大会との関連というところで東京大会は考えていないのかとなります。また若干関係してくるのが、22 ページ目のところでカーボンマネジメント、フットプリントのところを丁寧に読めばわかるけれども、今はここをメインにしているわけではないです。
- 事務局：今、カーボンフットプリントの冊子を出すように定められているわけではございません。その代わり、こうした WG の中で示して公開しているという状況です。
- 千葉代理：平昌やロンドンのような分け方をしても良いのかもしれませんが。

- 小西委員：2つ考え方があると思います。1つにこれは今までのオリンピックの考え方があるので、別途書くかは別にして、Owned・Shared・Associated というこのままの書き方で日本語の説明をつければ良いのではということです。そもそも Owned・Shared・Associated に分けるのは、それぞれの排出はそれぞれの責任で減らさないということです。東京大会は、「減らさない」、プラス、「オフセット」を初めてやるということです。国の排出を都がオフセットするのが良いのかという議論も残っていますので、Owned・Shared・Associated という概念は残したほうが良いと思います。もう1点は、Owned・Shared・Associated という本来濃さの違いがあるものも、東京大会は全部関係するもの、一つにしてオフセットをやりますという扱いであって、東京大会の自慢すべきところだと思いますので、それはオフセットのところで別途書けば良いと思います。したがって Owned・Shared・Associated はこのままで残すのが良いと思います。
- 藤野座長：かなり整理していただきました。これはロンドン大会から始まったものです。経緯を踏まえつつ、議論したことを必要十分に書いてもらえれば良いでしょうか。24ページ目の各主体の役割のところ、枠の左がFA/部署/機関、真ん中が気候変動に関する施策で、右のほうはやった対策を書くところでしょうか。
- 事務局：右の欄は資源管理の施策を記載する部分で、今回空白にしてあります。
- 藤野座長：今後この施策の具体的なものが反映されていくということですね。
- 小西委員：13 ページの水素社会と 18 ページのキャップ&トレードのコラムです。東京都の取り組みをコラムとして入れ込むということですか。目標4と5の間や、目標12という場所ですか。ここで都の取り組みをハイライトするというのでしょうか。
- 事務局：そのように考えています。
- 事務局：都の取り組みというだけではなく、大会にも関わるということで書いています。
- 小西委員：内容に反対ではなく、水素社会のコラムの場所が省エネの部分ですが良いでしょうか。別途まとめて都の取り組みとして書くのはどうでしょうか。水素社会をレガシーにという話も、もしかしたら最後に入る話なのではないでしょうか。輸送の問題でもあるし、再エネで燃料を賄うというのが難しい中、水素というのは脱炭素化の中で推進したい技術だと思います。これは省エネではなく、全般にかかるところでも良いのではないのでしょうか。コラムではなく抜き出してもっと大きく書いてはいかがでしょうか。

か。レガシーになります。目標 11 にもかかります。

- 藤野座長：全体にかかるということだと、9 ページの目標の前に書くというのがあります。
- 小西委員：目標がすべて終わった後ろに都の取り組みとして東京大会のレガシーというタイトルで全体にかけて書いても良いかもしれません。
- 千葉代理：13 ページの一番上に水素の記述があるので、事務局はここに書いたのではないのでしょうか。ここに書いた経緯が何かしらあるのではないのでしょうか。
- 事務局：目標 4 が会場に関するところなので、ここに入れていますが、全体にかけるのであればここでなくとも良いと思います。
- 小西委員：前は福島の前エネで作った水素を東京大会で使って復興五輪にするというのがありました。エネルギーシステム全体に対する提言ということにもなりますので、ハイライトとして全体にかけて書いても良いかもしれません。
- 藤野座長：目標とするよりは外に出して書いたほうが良いのではないかとのご指摘ですね。
- 小西委員：オフセットだけでは勿体ないと思います。
- 藤野座長：いろいろと考え始めると、なぜ国の取り組みは書かないのですかという話になってしまうので、そこは、事務局で考慮していただければと思いますが、私の印象では、キャップ&トレードは目標 12 の中であっても良いと思います。水素については、全体にかかるようにしても良いかもしれません。
- 小西委員：キャップ&トレードについては、開会式のオフセットで使うというのもあるので、記載をしているというもあるのかもしれませんが。
- 高橋委員：9 ページと 17 ページに再エネ電力 100%とありますが、前回のご意見では、再エネ 100%を目指すのは難しいというご意見もありましたが、この表現は、このままで良いのでしょうか。
- 事務局：経産省と相談しているところですが、100%という表現を下げなくても良いと

いう方向性で話をしていますが、まだ、材料が揃っていないので、その下げない理由をこの場でお示しすることはできません。この表現は、第1版から掲げており、小宮山先生からも言われていることでもあるので、この表現を下ろさないという方向で、話を進めている状況です。

- 高橋委員：17 ページについては、再エネ 100%に関して、大会会場について競技会場、IBC/MPC、選手村と場所を限定して書いているのは、ある程度、裏をとった上で、この表現にしているのでしょうか。
- 事務局：そうですね。
- 小西委員：前回、三浦委員からお話いただいた、7 ページの東京都建築物環境計画書制度については、段階3を達成する会場数という記載がありますが、段階3の基準を、レベル自体を上げていくという話がすばらしいと思ったところです。この段階3はどのようなものかという説明を注書きで構いませんので、入れていただければありがたいです。どれほどの省エネ基準なのかがわかる内容だと良いと思います。これを見た人が、省エネ基準がわかるとありがたいと思います。
- 藤野座長：これについては、東京都で相談していただければと思います。
- 千葉代理：書き方については、提案させていただきます。
- 藤野座長：2.1 の Zero Carbon という言葉のゼロは、数値目標としてではなく目指すべき方向性としてのゼロである、パリ協定を受け…というところの修正は不要でしょうか。
- 事務局：ここは、先ほどのご意見を踏まえ、修正して、入れ込みます。
- 藤野座長：ということは、「Zero Carbon という言葉のゼロは…」という文章は3-2のところの文章に置き換わるということでしょうか。
- 千葉代理：そうすると、「数値目標としてではなく」という表現が抜けるのはどうかと思います。そこは非常に重要ではないでしょうか。
- 小西委員：先日、小宮山先生からも修正意見がなかったのでこのままにさせていただきたいと思います。

- 千葉代理：パリ協定を受け、の後の文言を修正するということでしたよね。
- 事務局：そうですね。
- 藤野座長：それではその部分はよろしいでしょうか。これから、今後のスケジュール等を共有しますが、もし追加や具体的なご意見、代案があれば、できるだけ早めに、事務局までお願いします。もし他にご意見があればお願いします。よろしいですか。それでは、議事4、今後の予定について、お願いします。
- 事務局：今後の予定ですが、持続可能性計画は6月に策定予定です。4月16日に持続可能性DGで話し合い、4月末からGWを挟んで第二回のパブコメをします。5月にパブコメを受けてのDGがあって、その後、6月の半ば以降に策定となります。
- 事務局：報告ですが、策定直前には街づくり・持続可能性委員会は開催せず、持続可能性DGでご議論をまとめていただくということになります。
- 藤野座長：脱炭素WGは、第二回のパブコメの後にやるのでしょうか。
- 事務局：まだ、決まっていませんが、パブコメで大きな意見が来れば開催するかもしれません。
- 藤野座長：大きな意見が来なければ、やらないということではよろしいでしょうか。
- 事務局：はい。
- 小西委員：再エネを話し合う機会はありますか。
- 事務局：再エネに関しては、今、いろいろなところにお伺いしている状況ですので、その状況を一度、ご案内させていただいて、今の、再エネ電力100%ということを下ろさずによければ、話し合いは開催しないと思います。
- 小西委員：それはパブコメの前ですか。
- 事務局：パブコメの前までに準備して、ご案内させていただきます。WGとしての開催はスケジュール的に難しいと思います。

- 事務局：皆様にお集まりいただく時間もあまりないので。
- 小西委員：文言としては再エネ 100%の文言がどうなるか、ということですね。具体的な議論は6月以降にということでしょうか。
- 事務局：はい。
- 藤野座長：大きな変更があったときにどう進めるかはメールでやりましょう。全体的な本体に対する意見は、来週の月、火あたりまでをお願いします。議事はこれで終了です。本日はありがとうございました。

以上